

関東大震災100年

幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災

東京都は、関東大震災発生から100年を機に「TOKYO強靱化プロジェクト」の一環として共通ロゴを作成、都民一人ひとりの自らを守る取組みを促し、自動・共助・公助に取り組む機運を醸成したいとしている
(画像クリックで拡大表示)



東京における被害想定より「都心南部直下地震」。震度6強以上の範囲は区部の約6割に広がる(東京都資料より)
(画像クリックで拡大表示)



「身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相⑤～帰宅困難者をとりまく状況」より。帰宅困難、安否確認困難、公共機関運休、余震による建物倒壊、火災延焼による二次災害など
(画像クリックで拡大表示)

《 関東大震災100年 特別構成3 首都直下地震想定いま 》

● 関東大震災から100年 首都直下地震への想像力の更新を 首都直下地震の新たな被害想定と被災シナリオ

東京都は昨年6月、マグニチュード(M)7クラスの首都直下地震の都内の被害想定を10年ぶりに見直し、公表した。新たな被害想定では、「都心南部」でマグニチュード(M)7.3の直下型地震が発生した場合、都内の死者は最大で6148人、揺れや火災による建物被害は19万4431棟にのぼると推計(いずれも冬・夕方、風速8m/s)した。

2012年公表の想定では死者数は9641人、建物被害は約30万4300棟(いずれも東京湾北部地震)だったが、都は、この10年間で住宅耐震化や不燃化の対策が進展し、全体として被害を3～4割軽減できると見込んだ。いっぽう高齢化、単身世帯の増加など人口構成の変化やタワーマンション急増など、新たな都市リスク、脆弱性の課題も指摘。

住宅耐震化や不燃化対策を具体的にみると、特定緊急輸送道路沿建築物の耐震化率が91.6%に、住宅耐震化率は92%にまで高まった。この結果、建物全壊棟数は12万棟から8万棟へ減少。揺れによる死者は5100人から3200人にまで減った。不燃化については、木造住宅密集地域が約1万6000ヘクタールから8万6000ヘクタールに減少、不燃領域率は58.4%から64%へ増えたことから、焼失棟数は20万棟から12万棟、火災による死者数は4100人から2500人に減っている。

[>>東京都:首都直下地震等による東京の被害想定\(2022年5月25日公表\)](#)

■ 「人的被害」の数字に“慣れるな”——5つのシナリオで自分ごとの想像力を

報告書は、「現在の科学的知見では、客観的に定量化することができる事項に限られるため、被害数値のみをもって、首都直下地震等の発生時の被害実態とすることは、実際に都内で起こり得る被害の過小評価になる」と注意を促す。

そこで、想定では今回初めて、発生後に起こりうる5つの「シナリオ」=「身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相」を時系列で示している。5つとは、

- ① インフラ・ライフラインの復旧に向けた動き(停電、断水、メール・SNSの支障など)、
- ② 応急対策活動(耐震性の弱いマンション、ビルの倒壊・閉じ込め、火災も)、
- ③ 避難所での避難生活(スマホバッテリー切れ、衛生環境悪化など)、
- ④ 自宅での避難生活(生活必需品の払底、携帯トイレも枯渇、在宅避難の困難も)、
- ⑤ 帰宅困難者(二次災害に巻き込まれる、一時滞在施設が満員)

などだ。このシナリオは、大規模災害で身の回りで起こり得る様相への想像力のふくらみを、自らの環境に照らしながら強化してくれる。ぜひ各項目に照らして“わがこと”として災害リスクへの想像力を駆使していただきたい。

[>>東京都:身の回りで起こり得る被害の様相\(5つのシナリオ\)](#)

BOSAI+ Topics



東京都「安全・安心(強靱)な都市①」より。東京都は「未来の東京」戦略の一環として、「安全・安心なまちづくり戦略」を推進する計画だ(画像クリックで同サイトへリンク)

● 東京都が「令和4年度 都市の復興シンポジウム」を開催 1月16日—「関東大震災100年 レガシーと教訓」テーマに

東京都は、東京に大規模な震災等が発生した際の都市復興を円滑に進めるため、2000年度から都民参加型のシンポジウムを開催し、被災後の復興まちづくりのあり方について、都民と共に考える機会を設けている。本年(2023年)は関東大震災から100年を迎える節目として、「令和4年度 都市の復興シンポジウム～関東大震災のレガシーと教訓」と銘打って、来たる1月16日に開催する。

未来を見据えた今後の事前復興について、講演とパネルディスカッションを予定している(14時00分～17時00分。東京都庁第一本庁舎5階大会議場/オンライン配信 *事前申込制)。講演は、関東大震災の研究者として知られる武村雅之・名古屋大学特任教授、パネルディスカッション・コーディネーターはおなじみ、中林一樹・東京都立大学名誉教授。

[>>東京都:「令和4年度 都市の復興シンポジウム」](#)